

学校法人 睦美学園 むつみこども園
自己評価・学校関係者評価 公表シート
(2024年度)

1 評価項目の達成及び取り組み状況

重点的に取り組む目標・計画 「つながる・深まる」

評価項目	取り組み状況
コンセプトと 実践がつながる	<計画> むつみが大切にしたいことは徐々に浸透してきているが、よりわかりやすく、いろんな人に伝えていくために整理し直していく。また、保育課程や指導計画等のあり方見直し、実践レベルにおいてもコンセプトがつながっていくような仕組みづくりを行う。
	<報告・評価> むつみが大切にしていることをもう一度見つめ直し、言葉にしていくことに向き合った一年だった。こどももおとなも自分らしく生きるとはどういうことか、心地よく暮らすこと、思いっきり遊ぶこと、やりがいを持って働くことについて、スタッフで考える機会を持った。それらをもとに、遊びマップづくりやくらしの保育計画など、実践につながる仕組みも作った。一方で、コンセプトが誰にとってもわかりやすく伝わる方法や、ねらいを深めたり、手立てに落とし込む部分に課題が残った。
保育と向き合う	<計画> 遊びがつながり、深まっていく。そのためには大人の適切な関わりや環境づくりが欠かせないが、その背景として、こどもの姿の適切なみとりやねらい、計画、実践、評価のサイクルがシステムとして日常に組み込まれている必要がある。そのためのシステムづくりを継続的に取り組む。
	<報告・評価> 日々の記録の共有や、遊び、くらし、室内および園庭の環境づくりのための時間を確保したことで、こどもの姿や遊びそのものの計画や実践に費やす時間が増加した。みんなで見守る意識が園全体で強くなっているからこそ、誰がどの部分を担当して考えているのかわかりにくいといった難しさがあるが、コミュニケーションを意識しながら、今後も改善に努めていきたい。
	<計画> くらし方を自分自身で意識する。身体を十分に動かす。怪我を防ぐことを自ら意識する。生きるために食べる。ゆっくり休む。新たに迎え入れる1歳児を含めた園全体での身体を意識したしかけづくりに取り組む。

<p>身体と向き合う</p>	<p>＜報告・評価＞心地よくくらすために意識したいポイントを整理し、それをもとに月ごとの計画を立てていった。視点を整理したことで、一人ひとりのくらしを広く見渡すことができるようになり、スタッフ同士の見方の違いにも気づき、継続して考える土台ができた。特に「身体を動かす」ことについてはプロジェクトを立ち上げ、無意識に身体を動かせる仕掛けづくりや、楽しさに気づけるような活動を日々のくらしの中に組み込んでいった。</p>
<p>余裕のある保育</p>	<p>＜計画＞長時間の保育が日常化する中で、こどもたちがゆったりできる場所や時間の確保が欠かせない。また、スタッフにとっても休むための時間や書き物に集中する・話し合いをするための時間を確保し、誰にとっても公平なシステムづくりに努めたい。</p> <p>＜報告・評価＞特にまちでは、保育のシステムが大きく変わる中で、時間確保のためのシフトづくりに試行錯誤を重ねた。連携の難しさや、こどものくらしの不安定さなど課題もあったが、その都度ミーティングを行い改善を図ったことで、少しずつ余裕のある時間が生まれてきた。こどももおとなもゆったり過ごせる環境づくりに向けて、一歩ずつ進んでいる。</p>
<p>保護者とともに</p>	<p>＜計画＞こどもの遊びのおもしろさへの保護者の理解は高まりつつある一方で、働き方や保育ニーズも多様化し、保育のことを知ってもらうには工夫が必要である。保護者とともにこどものことを考えるしかけを増やしていきたい。</p> <p>＜報告・評価＞くらしや行事のあり方を見直したことで、保護者との対話の機会が増え、こどものことを一緒に考える風土が少しずつ育ってきた。くらし・おうち懇談会の定着に加え、参加率も上がってきている。また、アップデート説明会をきっかけに、保護者と園がともに園運営や研修、活動の企画を行う「おとな町内会」や交流の場「おしゃべりサロン ごはん会」がスタートするなど、協働や交流のかたちも広がっている。</p>
<p>町とともに</p>	<p>＜計画＞むつみのことを知ってもらうきっかけをさらに増やしていくとともに、園内での遊びからつながってこどもが町の活動に参加したり、いろんな人にむつみに入ってきてもらうなど、双方向での町とのつながりを増やしていきたい。</p> <p>＜報告・評価＞まちでのくらしやしごとの一環として、出かけて行って交流したり、園に来てもらって教えてもらうなどの機会が増えた。また、「町ぐるみ」などのイベントや小学生を対象とした居場所づくりを通して、むつみのことに興味を持ってもらう機会も増えている。園内でプロジェクトを立ち上げ、今後も園やアトリエから様々な企画を立ち上げる予定である。</p>

2 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・むつみの保育が大切にしていることが言語化され、それが日常の保育に浸透している様子がうかがえた。
- ・子どもの今に寄り添う姿勢は素晴らしいが、遊びを深めていくためのさらなる環境づくりが必要。
- ・保護者と一緒に保育を面白い関係づくりに期待したい。

3 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み
とことんやりこむ	夢中になるための仕掛け。しごと場をはじめとした環境づくりや、大人の関わり方について模索していく。
こどもをおもしろがる	どこに目線を置くか。その眼差しで、関わり方や環境づくりは大きく変わってくる。いかにおもしろがれるか。その目線を互いに共有できるしくみをつくる。
身体と向き合う	くらし方を自分自身で意識する。身体を十分に動かす。怪我を防ぐことを自ら意識する。生きるために食べる。ゆっくり休む。そんな仕掛けづくりを行う。
遊ぶように働く 暮らすように働く	遊びと暮らしと仕事は分けられるものではなく、生きることそのもの。大人が働くことと向き合い、やりがいのある仕事場になることを目指す。
大人も自分らしく	スタッフも、保護者も、地域の方も、一緒に考える。大人町内会を中心として、こどもはもちろん、大人も自分らしく生きることができるよう、どうすればいいかを考えるための場づくりに努めていく。
町とともに	いろんな人が集まる場。こどもやこども園、アトリエがハブとなって、園内にも、地域にも、自然と人が集まり、交わっていきことができるような動線やしくみを作っていく。